

第二次 和田山地区まちづくり計画

～ 夢・未来 — 笑顔あふれるまち和田山 ～



一本柳交差点付近

【写真提供：吉田 利栄】

2022（令和4）年4月
和田山地区地域自治協議会

第二次和田山地区まちづくり計画の策定にあたって

2008年9月に和田山地区地域自治協議会が設立され、その後2011年に「和田山地区まちづくり計画」を策定してから10年が経過しましたので、この度、社会情勢や地域課題などの変化を反映し、今後も和田山地区の住民の皆さん一人ひとりが住み続けたいと感じるまちづくりを目指し、第一次のまちづくり計画を継承しつつ、今の時代に合った見直しを行いました。

第一次計画策定時からの社会情勢の大きな変化としては、地球規模の気候変動により、地震、台風、大雨等の自然災害が全国至る所で発生し、我々が住む地域においても災害が発生する恐れがあり、防災に対する心構えも必要であると思われます。

加えて、「新型コロナウイルス」の感染が世界中に拡がり、我が国においても感染対策が最重要課題になるなど、日常の社会生活を維持していく上で大きな影響を与えていることです。又、少子高齢化、人口減少問題については今に始まったのではなく、特効薬が無いと言っても過言ではないと思えます。

2040年には全国で約890の自治体が消滅可能性都市になるといわれ、朝来市もその中に含まれており深刻な状況といえますが、何とかみんなで力を合わせ解決の糸口を見つけて、住んで良かったまち、元気なまちづくりの実現に向けて、地域の皆さんの挑戦力を大いに期待したいと思います。

近年はインターネット・スマートフォンの普及などにより生活様式が大きく変化し利便性は向上したものの、多様性の時代にあって働き方や価値観の変革など人と人との関わり方が希薄になっており、今後は自治協議会活動を通じて、世代を超えた交流と住み良い環境づくりを目指す取組みが求められています。

我々が住んでいる和田山地区は、市役所をはじめ公共施設、医療施設、大型ショッピングセンター、ホームセンター、外食産業等いろいろな企業が集積しており朝来市の中心地でもあります。反面、商工業者、農業者の後継者不足、空き家増加等の負の部分を抱えており、将来を見据えて計画を進めていく必要があります。

このことを踏まえ、今回「和田山地区まちづくり住民アンケート」を行い、その調査結果を基に「第二次まちづくり計画」を策定しました。

これからは、この計画に基づき現実を見つめ、元気なまちづくりを目指し自治協議会活動を推進していきますので、皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、本計画策定にご尽力をいただきました関係者の皆様、アンケート調査にご協力いただきました関係者各位、住民の皆様に衷心から感謝とお礼を申し上げます。

2022年3月

和田山地区地域自治協議会 会長 山本 正之

目 次

はじめに 和田山地区まちづくり計画について

1 地域まちづくり計画とは	2
2 地域まちづくり計画の役割	2
3 目標年次と取組み	2

第1章 和田山地区の現状と課題

1 和田山地区の概要	3
2 和田山地区地域自治協議会のこれまでの活動	4
3 和田山地区の人口の構成と推移	8
4 和田山地区まちづくり住民アンケート集計結果	10
5 住民アンケート集計結果と検討委員会等で見えてきた課題	12
6 まちづくり計画の主要課題	12

第2章 和田山地区が目指す将来像

1 将来像	13
2 基本方針	13
3 基本方針と施策	14

第3章 まちづくりの推進に向けて

1 和田山地区まちづくりの推進体制	18
2 まちづくり計画の見直しについて	19
3 部会活動その他の活動について	19

参考資料

和田山地区まちづくり計画策定の経過	20
和田山地区まちづくり計画策定委員会 委員名簿	21

はじめに 和田山地区まちづくり計画について

1 地域まちづくり計画とは

この計画は、地域の課題を共有し、その解決に向けて地域自治協議会が取り組む地域のまちづくりの目標、活動方針等を定めた地域まちづくり計画を、朝来市自治基本条例で策定することと規定されており、市内11の地域自治協議会すべてが策定しています。

当地区の計画は2011(平成23)年4月に策定し、まちづくりに向けた概ね10年後を見据えた中長期のまちづくりの基本方針や施策を示したものであり、和田山地区地域自治協議会における最上位に位置するものです。第一次のまちづくり計画の策定から概ね10年経過し、この間、社会情勢や地域の状況等が変化していることから見直しを行いました。

見直しにあたり地域住民の皆様の意向を反映するため、中学生以上の方を対象にした「和田山地区まちづくり住民アンケート」を実施し、得られた皆さんの思いや意見等を参考にして検討会を重ね、本計画を策定しました。

2 地域まちづくり計画の役割

この計画は、当地区のまちづくりの指針となる計画であり、以下のような役割を持っています。

1) 地域での活動・事業における、役割・関係を明確にする

地域には、様々な活動・事業(安全防犯活動、福祉活動、環境保全活動、文化の伝承、地域の活力づくり等々)があります。それらの役割・関係などの位置付けをはっきりさせておくと、どこに重点を置いたらいいか、新たに取り組むべきものは何か、などが分かりやすく見えてきます。

2) 地域での活動の効率化が図れる

様々な活動が協力・連携しやすくなり、活動を統合するなど効率的な活動を進めていくことができます。

3 目標年次と取組み

まちづくり計画とは、長期的な地域のまちづくりの方針や今後、取り組む施策を示すものであり、概ね10年後の地域のあるべき姿を描くことを目標とします。

第1章 和田山地区の現状と課題

1 和田山地区の概要

1) 位置

和田山地区は兵庫県朝来市和田山町の中央部に位置し、枚田小学校区に属する15区からなるエリア（約13.33km²(山林を含む)）です。

2) 地勢

円山川本流と与布土川、東河川とが合流する地帯で、これら河川沿いに平野部が広がり、市街地や点在する集落、農耕地、そして周囲を山林部が取り巻いています。

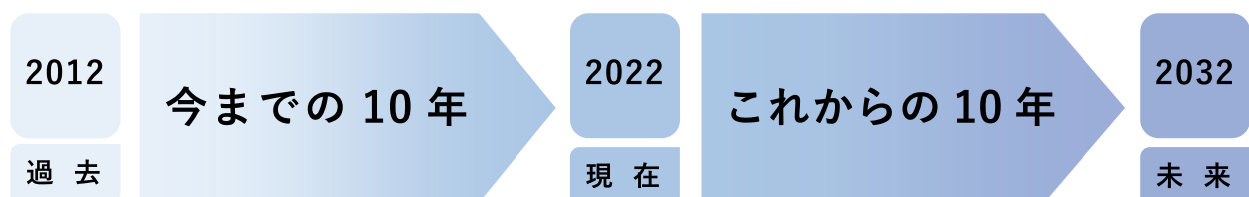
3) 交通

JR 和田山駅で山陰本線と播但線が乗継ぎできます。また、地区内には国道9号線と国道312号線が交差しています。さらに円山川右岸道路も整備され、交通の要衝となっています。

4) 人口

和田山地区の人口は2021（令和3）年9月30日（住民基本台帳）時点で4,963人、世帯数2,174世帯となっており、1世帯あたりの平均世帯人員は2.28人となっています。

また、65歳以上人口は1,398人で、和田山地区の人口の28.17%を占めています。朝来市全体の65歳以上人口は10,379人、高齢化率は35.47%となっており、市内11の地域自治協議会の中で2番目に高齢化率が低い地域となっています。



まちづくり計画の目標年次と取組みのイメージ

2 和田山地区地域自治協議会のこれまでの活動 2008(平成 20)～2021(令和 3)年度

1) 2008(平成 20)年 9 月 地域自治協議会の設立

「自考・自行、共助・共創」の精神を持って、住民自らが地域の将来像を考え、その実現に向けて行動することによって、住み良い地域を形成していくことを目的として、和田山地区地域自治協議会が設立されました。

2) 総会・理事会・役員会議等

事務局及び各部会から活動内容の提案を受け、会長・副会長・事務局長・会計の 4 役で構成された 4 役会議を開催して事業実施の可否等の協議を行いました。その後、約 35 名の理事会に諮り承認を受け、60 名の代議員による総会を開催して議案の可否等の議決を行いました。

3) 4 部会の活動とその他の活動

① 和づくり・出会い部会

●基本方針 地域住民同士の交流の場を創り、
交流を促進する。

- ・和づくりレクリエーション大会の実施
- ・地区の行事への参加（枚田岡会館文化祭バザー出店）
- ・ふれあいウォーキング大会の実施
- * グラウンドゴルフ大会の実施



和づくりレクリエーション大会



ふれあいウォーキング大会

*印：現在は行っていない活動

② 安全・安心・定住部会

●基本方針 あらゆる世代の人たちが安全で安心して
生活し、定住できる地域づくりを目指す。

- ・青パト防犯パトロールの実施
(夏期と冬期にそれぞれ6回 計12回)
- ・青パト講習会の実施
- ・赤色回転灯の設置助成 7箇所
- *防犯カメラの設置助成 1箇所
- *高齢者向け自転車安全教室の開催
- *高齢者向け緊急情報キットの配布
- *定住促進・移住者支援勉強会の開催
- *定住促進・移住者支援に関する先進地視察の実施



青パト防犯パトロール



青パト講習会

*印：現在は行っていない活動

③ 自然・生活環境部会

●基本方針 自然環境の保全とクリーンな
まちづくりで環境美化を目指す。

- ・啓発看板の設置・補修及びごみ拾い・啓発チラシ入りティッシュの配布
- ・一本柳交差点付近の事業所との合同クリーン作戦の実施



啓発看板の設置



事業所との合同クリーン作戦

*印：現在は行っていない活動

④ 広報部会

- ・わだやま夢らんど（和田山地区地域自治協議会広報誌）
を年3～4回発行し、地区内の全戸に配布したほか、公共施設・病院・金融機関等に配架した。



わだやま夢らんど

○地域自治協議会事務局

- ・各区、団体への補助事業
 - ① 地域づくり支援事業補助金
（防犯灯設置、ゴミステーション整備、公民館修繕等）
 - ② 区活動費補助金（公民館維持費等）
 - ③ 地域協働事業補助金
 - 花づくり事業（枚田小、和田山中、枚田岡会館ほか8箇所に助成）
 - 環境保全事業（草刈り助成を15区に助成）
 - 交通安全事業（交通安全のぼり旗の配布等）
- ・デジタル印刷機での印刷業務
- ・イベント用品等の貸出し（綿菓子機、ポップコーン機、草刈機、テント、机イス等）
- ・和田山地区区長会事務局
- * 県民交流広場事業（2008～2012年）



ゴミステーション整備



花づくり事業

○交流サロンの開設

- ・カラオケコーナーの設置
- ・体力向上コーナーの設置
- ・囲碁・将棋愛好会の利用
- ・短歌・俳句愛好会の利用
- ・喫茶コーナーの開設



カラオケコーナー



囲碁愛好会

○地域自治協議会全体事業

- ・高齢者交流活動事業の支援（枚田校区の民生委員等が枚田岡会館において実施する交流会経費の一部を助成）
 - ・ペットボトルツリー制作・設置、点灯事業（子どもたちと一緒に制作し、12月から1月に点灯）
 - ・ごみ出し・買い物支援事業（一人暮らし高齢者等で、ごみ出し・買い物が困難な方に対し協力者がお手伝いする）
- *移住促進・移住者支援事業



枚田校区高齢者交流会



ペットボトルツリー制作



ごみ出しサービス

*印：現在は行っていない活動

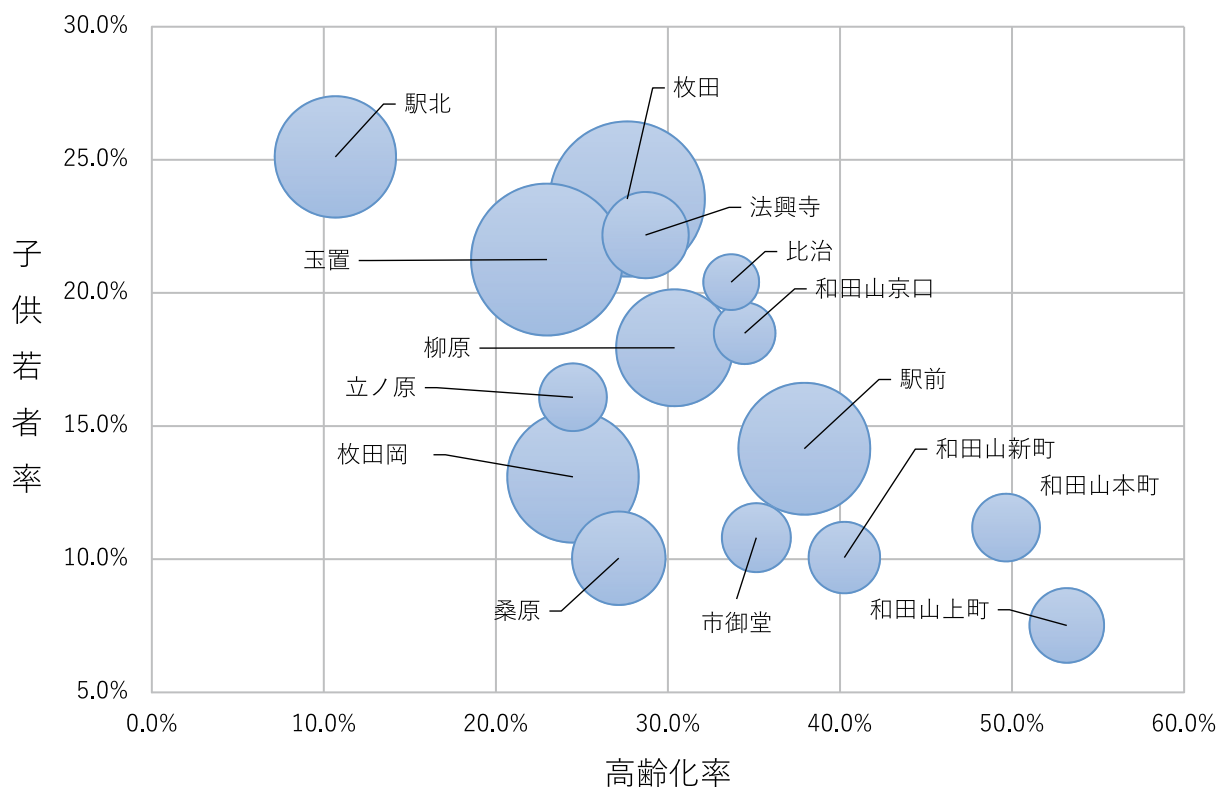
3 和田山地区の人口の構成と推移

1) 現時点における人口

2021（令和3）年9月30日時点における和田山地区（枚田小学校区）における人口は4,963人、世帯は2,174世帯、高齢化率（65歳以上の比率）は28.17%（住民基本台帳）であり、市内11の地域自治協議会の中では2番目に高齢化率が低くなっています。

さらに行政区別に人口を抽出し、横軸を高齢化率（65歳以上の比率）、縦軸を子供若者率（20歳未満の比率）としたバブルチャートを作成すると、図1のようになります。

図1 各行政区における人口規模と高齢化率及び子供若者率



和田山地区全体で見ると人口規模として98~731人の幅があり、子供若者率は7.5~25.1%の幅があり、高齢化率は10.7~53.2%の幅があります。

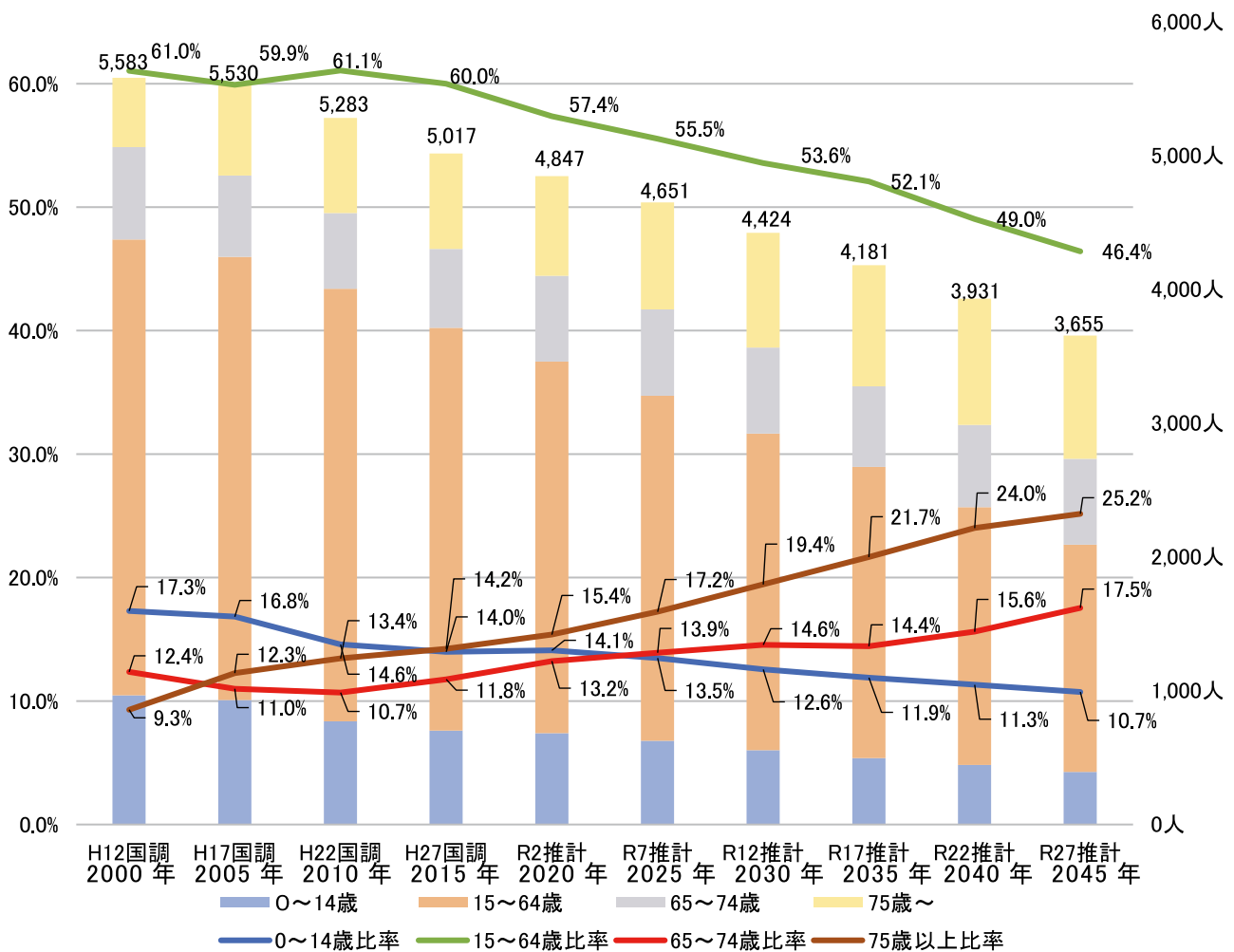
このように、和田山地区とひとくくりにしても、行政区によって人口・年齢構成に差があります。

2) 推測される今後の人口

次に、国勢調査に基づいた和田山地区全体における人口・高齢化率推移実績（2000～2015年（平成12～27年））及び人口・高齢化率推移予測（2020～2045年（令和2～27年））について示します。

横軸に該当する年、縦軸に年代別に積み上げた人口の棒グラフと高齢化率を示した折れ線グラフにすると、図2のようになります。このグラフからわかることは、和田山地区においては2045年（令和27年）に高齢化率が42.7%（およそ2人に1人が高齢者）となり、2000年（平成12年）に比べて人口が約65%に減少することです。また、15～64歳の生産年齢人口の割合が、2000年（平成12年）の61.0%から2045年（令和27年）の46.4%と14.6%も減少することが予想されています。

図2 和田山地区内の人口及び高齢化率の推計



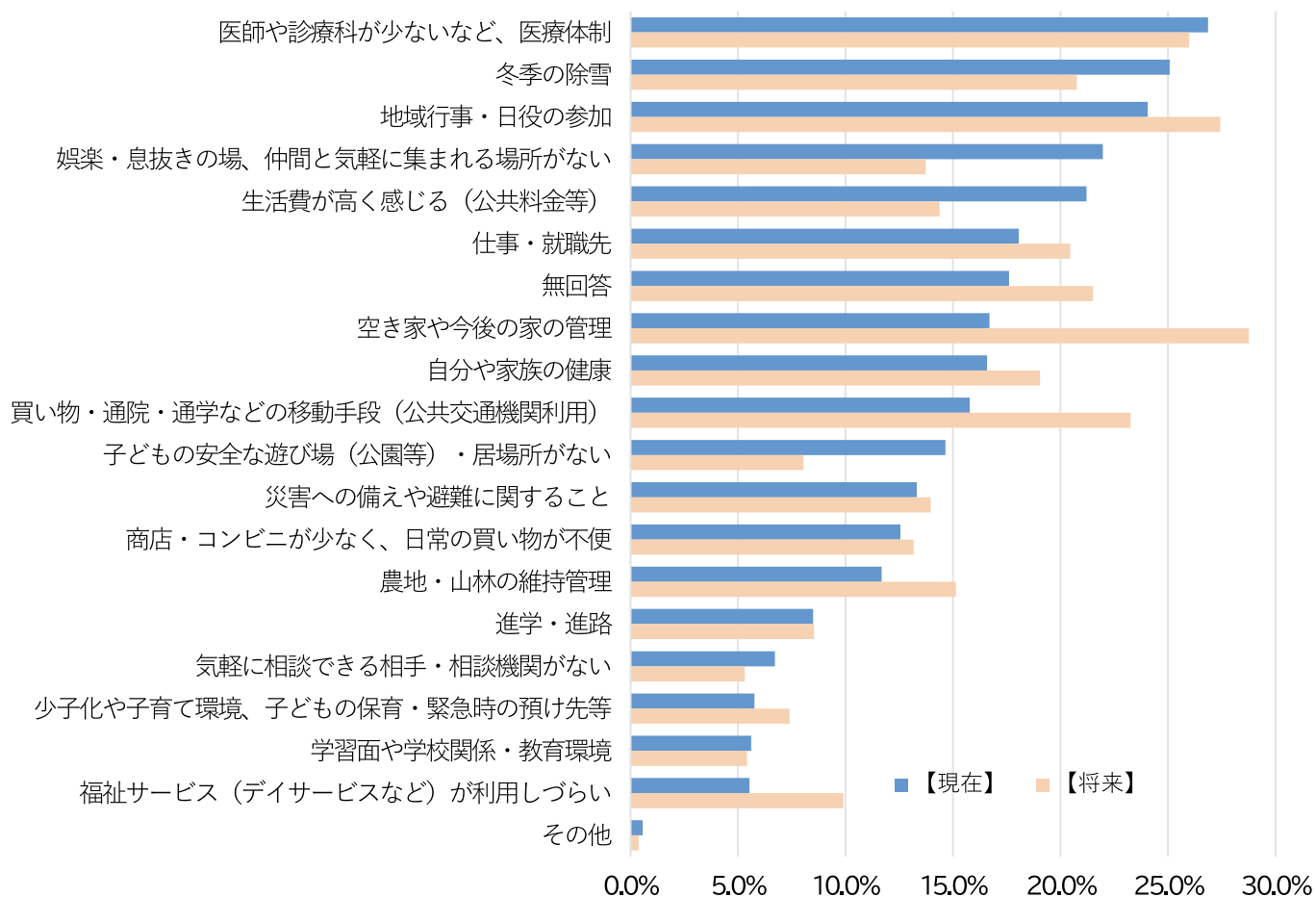
4 和田山地区まちづくり住民アンケート集計結果

1) アンケートの実施内容及び集計結果

- ① 対象者 和田山地区在住の中学生以上（アパート等は除く）3,150名
- ② 実施期間 2021(令和3)年2～3月に配布・回収（回収数：2,636、回収率：83.68%）
- ③ 調査内容 属性調査、暮らしに関する意識調査、和田山地区地域自治協議会及び地域活動に関する意識調査

※アンケート集計結果の概要版は 2021 年 10 月に全戸配布。詳細は自治協事務局にて
閲覧可能（問合せ先：裏表紙参照）

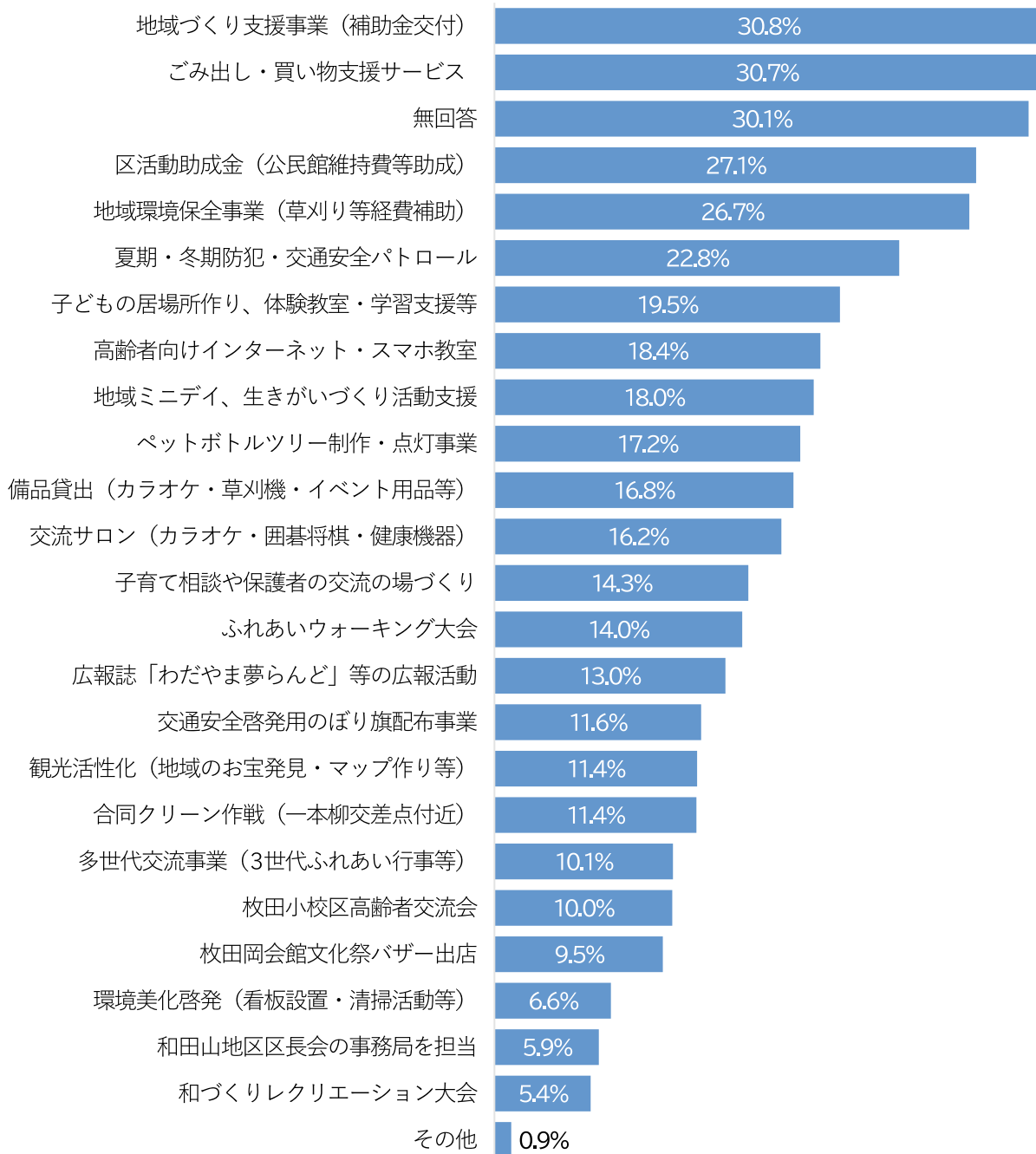
表 1 和田山地区での現在と将来の暮らしについて、特に不便や不安を感じること、困っていることは？



この表からわかること

- ・現在の上位3項目は「医療体制」、「除雪」、「地域行事等への参加」となっている。
- ・将来の上位3項目は「空き家」、「地域行事等への参加」、「医療体制」となっている。
- ・現在と比べて、将来の空き家の管理に不安を抱える方の割合が高くなっている。

表2 地域自治競技会が今後も取り組むと良い活動、新たに取り組めば良い活動は？



この表からわかること

- ・上位項目は、支援・助成的な活動となっている。
- ・「ごみ出し・買い物支援」は、知っている人が2割にもかかわらず、今後も取り組むべきと考える人が3割を超え2位となっている。

5 住民アンケート集計結果と検討委員会等で見えてきた課題

2021年2月に実施した「まちづくり計画住民アンケート」の集計結果に基づき、同年7月29日から計6回開催した「まちづくり計画策定検討委員会」及び11月21日に開催した「部会員合同検討会」の中で参加者から出された「地域課題」に基づき、『第二次まちづくり計画』の主要課題を以下のとおり設定します。

1) 誰もが参加しやすい交流の場づくりが必要

- 「多世代・各種交流」の推進（交流の機会の設定）
- 「地域共同体」意識の向上（地域活動、関わり合いなどコミュニティ意識が減退）

2) 若い世代も参加しやすい地域活動の取組みが必要

- 「風習・伝統行事」の継承（継承が困難になってきた。）
- 「若者・後継者」の不足（区役員等の高齢化、店舗の減少、賑わいの減退）

3) 子どもを育み、子育てしやすいまちづくりが必要

- 「少子化」の進行（子育て対策の促進）

4) 安全・安心なまちづくりが必要

- 「防犯・防災」の意識向上（防犯・防災への関心度の低下）
- 「空き家・空き地」対策の促進（防犯・防災の観点から）
- 「交通安全」対策の推進（安全な地域づくり、高齢者運転・歩行）

5) 高齢者の暮らしの支援が必要

- 「高齢化」のさらなる進行（生活支援などの促進）
- 「健幸志向」への対応（生きがいづくりの創出）

6) 空き家・空き地の対応が必要

- 「定住・移住」の促進（人口減少・高齢化対策、空き家・空き地が多い。）

7) 自然環境（山・川）と景観保全・美化が必要

- 「自然環境」の保全（住み良い地域づくり）
- 「生活環境」の保全（暮らしやすい地域づくり）
- 「空き家・空き地」対策の促進（景観保全の観点から）
- 「農地」の保全・管理（耕作放棄地の増加）

8) 地域内外への情報発信・共有が必要

- 「自治協議会の存在と役割」の向上（認知度が低い。）
- 「情報発信ツール」の多様化（PRの不足、若者への情報提供体制の確保）
- 「情報共有」の促進（課題解決のための情報共有）

第2章 和田山地区が目指す将来像

1 将来像

和田山地区は、四季折々に装いを変える山々の景観や、桜並木が円山川と与布土川沿いにあり、国道、鉄道も結節点で交通の要衝となっています。また、図書館や文化会館などの公共施設、大型店舗などが立地する利便性の高い地域です。特に、住民アンケートでも買い物の便利がよい、自然環境に恵まれているという意見が多くありました。そこでこれらの結果を踏まえ、地域住民がいきいきと暮らす笑顔あふれるまちづくりを目指すこととし、将来像を次のとおり設定します。

～ 夢・未来 – 笑顔あふれるまち和田山～

2 基本方針

将来像である「夢・未来 – 笑顔あふれるまち和田山」の実現に向けて、前段（第1章）で設定しました8つの主要課題を解決するため、次の4つの基本方針を掲げ、まちづくりに取り組んでいきます。

- 1) 子どもから高齢者まで誰もが参加しやすい交流のまちづくり
- 2) 互いに支え合う安全・安心なまちづくり
- 3) 自然環境の保全とクリーンなまちづくり
- 4) 地域内外への情報発信・共有のまちづくり

3 基本方針と施策

基本方針を実現するために必要と思われる施策及び考えられる事業例は次のとおりです。
ただし、事業例については、住民アンケートや検討会などで出されたものです。

1) 子どもから高齢者まで誰もが参加しやすい交流のまちづくり

核家族化や少子高齢化の進む中で、地域の担い手不足などから和田山地区に残るすばらしい歴史や文化・伝統の継承が課題となっています。このため、子どもから高齢者まで誰もが参加しやすい交流の場づくりを進め、文化や伝統を後世に残していく取組みが必要と考えます。また、この取組みにより高齢者が子どもとふれあう機会を増やすことで、お互いが健康で生き生きとした暮らしができる地域づくりを目指します。

施策と事業例

① 世代間交流活動

あいさつ運動

ふれあいランニング・ウォーキング

枚田岡会館文化祭へのバザー出店

昔遊びの継承に関する交流会

高校生との交流スマホ教室

世代間交流イベント（小中高生・若者・高齢者等）

ニュースポーツ「モルック」の普及

eスポーツ、ゲーム等の活用



ふれあいウォーキング

② 交流サロンの利用促進

囲碁・将棋、短歌・俳句などの文化活動支援

カラオケコーナーの設置

体力向上コーナーの設置



交流サロン

③ 子育て支援活動

子育て教室

子ども夢教室（土曜チャレンジ教室等）

2) 互いに支え合う安全・安心なまちづくり

少子・高齢化社会を迎え、核家族化の進展や生活様式の多様化などから、家族や地域で互いに支え合う力が弱くなってきています。そのような中で和田山地区においても防犯・災害対策、空き家対策、子育てや老後の不安など様々な問題を抱えています。今後、少子・高齢化はますます進行していくものと予想されるため、これらを踏まえて見守りなど安心して子育てができ、高齢者に対しても互いに支え合うことができる体制づくりや人材を確保することが必要です。そのため、空き家などを活用した移住・定住の促進を図り、誰もが安心して住み続けることができるまちづくりを目指します。

施策と事業例

① 防犯対策活動

防犯灯の維持管理 青パト防犯パトロール
赤色回転灯の設置 交通安全講習会
子ども見守り隊への支援



青パト防犯パトロール

② 防災活動の推進

防災訓練 防火・防災教室

③ 高齢者の暮らしの支援活動

高齢者交流会
買い物支援サービス ごみ出しサービス
除雪・草刈り支援 見守り体制



ごみ出しサービス

④ 健幸増進活動

百歳体操会、健幸づくりに関する教室

⑤ 空き家対策

空き家対策の研修会、空き家・空き地情報の把握、相談

⑥ 移住・定住の支援

移住者等に関する研修会、移住者等の把握、相談

3) 自然環境の保全とクリーンなまちづくり

和田山地区は、自然環境の良さに加え、河川沿いや公園などの桜の植樹、円山川河川敷の草刈りなど長年にわたるボランティア活動により、良好な住環境が形成され維持されてきましたが、若者の減少や高齢化に伴い、草刈りなどの奉仕作業を維持していくことが困難な状況になりつつあります。住民一人ひとりが美しい景観を守り、美しい住環境の中でいきいきと暮らせるよう、環境美化や空き家・空き地対策などの活動を通して住民意識の向上を目指します。

施策と事業例

① 自然景観の保全活動

草刈機の貸出し
地域環境美化活動への支援



環境美化啓発看板の設置

② 生活環境の保全活動

環境美化啓発看板の設置・補修
事業所との合同クリーン作戦
花づくり活動への支援



事業所との合同クリーン作戦

③ 空き家・空き地対策活動

空き家・空き地による環境問題解決のための活動



和中の花づくり活動

4) 地域内外への情報発信・共有のまちづくり

和田山地区が今後どのような「まちづくり」を目指しているのか、そのためにはどのような活動を推進していくのか等の情報を、地域内外に発信し、多くの応援していただける人材を育てる必要があります。現在、年に数回発行している広報誌だけでなく、ホームページの開設や多くのSNSの活用など、より多くの皆さんに地域自治協議会を知ってもらい気軽に参加いただけるよう、幅広い情報発信を目指します。

施策と事業例

① 情報発信活動

広報誌「わだやま夢らんど」の発行
市ケーブルテレビの活用
公式ホームページの開設、運用管理



「夢らんど」の発行

② 地域自治協議会の認知度向上・情報共有活動

ペットボトルツリー制作・設置によるアピール
SNS等の開設、活用
SNS研修会



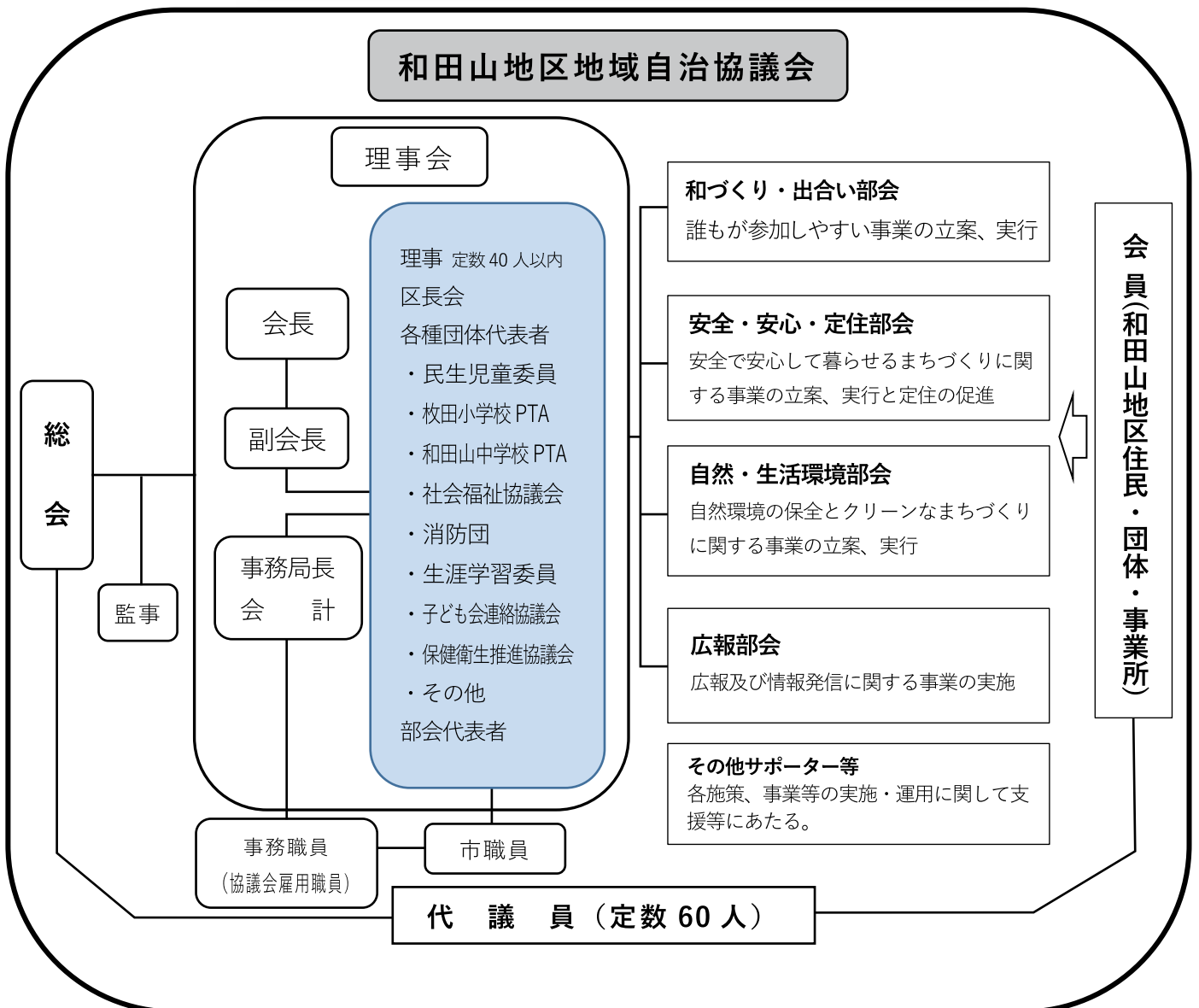
ペットボトルツリー設置・点灯事業

3章 まちづくりの推進に向けて

1 和田山地区まちづくりの推進体制

これからのまちづくりを実践していくためには、地域住民、企業、関係機関及び各種団体等が個々に取り組んでいくものや、相互に連携を図りながら取り組んでいくものなどがあります。そのため、地域の課題解決に向けて互いにまちづくりへの意識の共有を図りながら協働し、住み良い和田山地区を目指した取組みを進めます。

和田山地区地域自治協議会組織体制図



2 まちづくり計画の見直しについて

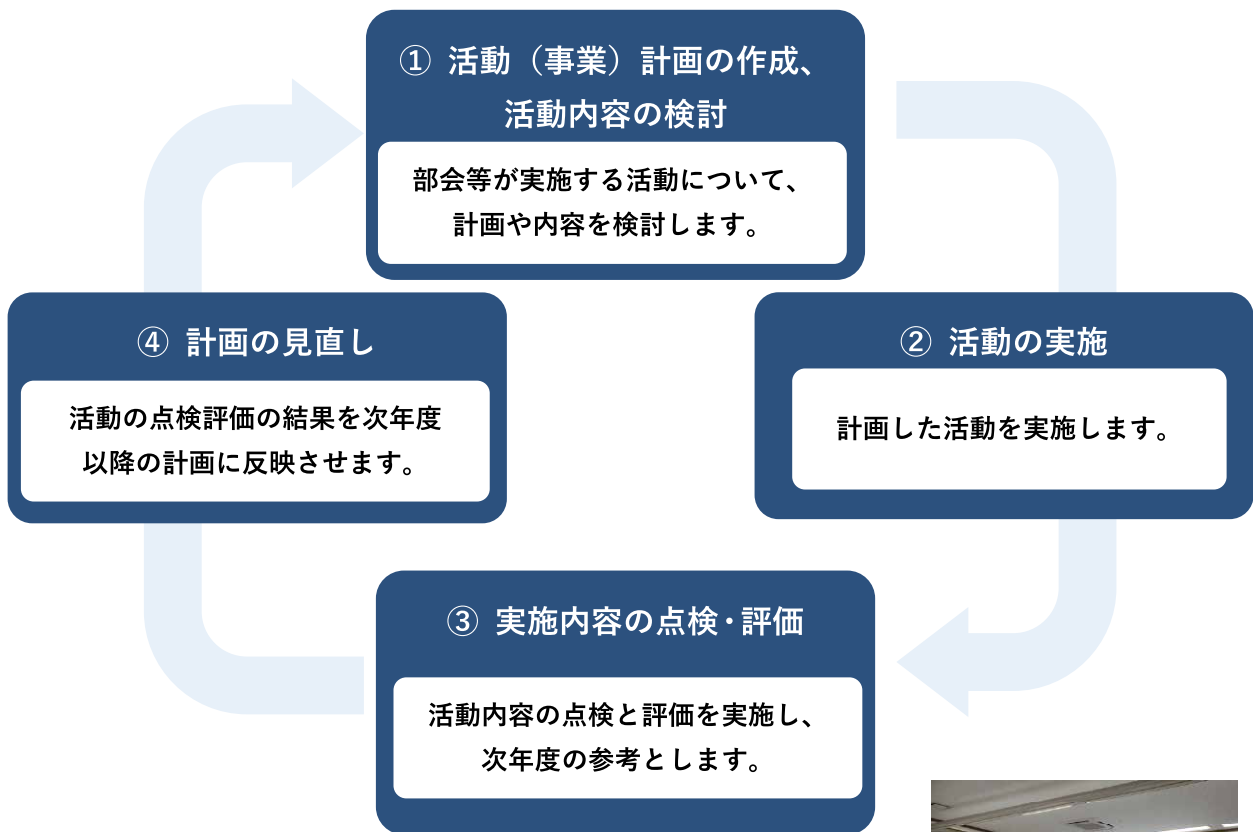
和田山地区まちづくり計画は、和田山地区を取り巻く状況の変化に適切に対応するために、概ね10年後のあるべき姿を描くことを目標とします。しかしながら、近年の社会情勢は急速に変化しており、その変化に対応するため、3年後あるいは5年後の見直しも必要となる可能性があります。

また、進捗状況の点検については、取り組む施策の進捗状況を確認し、施策について見直しを行います。

3 部会活動その他の活動について

部会活動その他の活動については、毎年振り返り、地域の状況変化に対応できるように活動内容を随時変更できるものとします。

部会活動その他の活動に関する進行管理図



まちづくり計画策定検討委員会

○ 和田山地区第二次まちづくり計画策定の経過

和田山地区第二次まちづくり計画の策定に至るまでの経過をまとめました。

開催日	会議名等	会議内容等
2020年3月26日	自治協4役会	まちづくり計画見直しの必要性説明
2020年4月30日	自治協総会（書面議決）	令和2年度事業計画及び予算を可決
2020年6月1日	自治協4役会	スケジュール及び手法等を協議
2020年8月6日	第1回まちづくり計画策定検討委員会	計画策定の進め方及び住民アンケート実施の可否等について意見交換
2020年8月17日	和田山地区区長会	計画策定の状況説明と協力依頼
2020年9月16日	第2回まちづくり計画策定検討委員会	アンケート内容の検討
2020年11月2日	第3回まちづくり計画策定検討委員会	アンケート内容の検討修正
2020年12月16日	第4回まちづくり計画策定検討委員会	最終案と実施方法の決定
2021年1月13日	アンケート用紙・封筒の印刷完了	
2021年2月1日	和田山地区区長会	アンケートの配付及び回収依頼
2021年2月28日	アンケート回収完了	配布3,150件 回収2,636件 回収率83.68%
2021年3月22日	アンケート結果の入力作業完了	
2021年6月4日	アンケート結果の分析及び報告書作成業務委託	アンケート結果の分析及び報告書作成業務委託
2021年6月10日	自治協4役会	令和3年度まちづくり計画策定検討委員会の委員等について協議
2021年7月29日	R3第1回まちづくり計画策定検討委員会	委員会立上げ及びアンケート結果の分析書報告・計画内容の意見交換
2021年8月24日	R3第2回まちづくり計画策定検討委員会	追加分析書報告及びアンケート結果概要版の全戸配布等について意見交換
2021年9月17日	R3第3回まちづくり計画策定検討委員会	アンケート結果概要版の内容決定及び次期計画に盛り込む強み・弱み等について意見交換
2021年10月21日	R3第4回まちづくり計画策定検討委員会	次期計画で描く目指す和田山の姿、地域全体で取り組んでいくテーマ（現部会も基本にしながら検討）
2021年11月21日	部会員合同検討会：4部会との合同会議	4部会に分かれワークショップ形式、地域全体で取り組んでいくテーマ（計画の柱立て）・目標について意見交換
2021年12月21日	R3第5回まちづくり計画策定検討委員会	計画策定の最終段階を迎えての意見交換及び文章化
2022年1月25日	R3第6回まちづくり計画策定検討委員会	計画書の文章表現及びレイアウト等を最終校正
2022年2月	印刷・製本	
2022年4月	理事会において報告、承認	
2022年5月	総会において報告、議決	

○ 和田山地区第二次まちづくり計画策定委員会名簿

令和2年度

職	氏名	役職・部会等
委員長	藤本辰也	和田山地区地域自治協議会 会長
副委員長	尾花 聡	和田山地区地域自治協議会 会計
委員	日原幸雄	和田山地区地域自治協議会 副会長
委員	長野信夫	和田山地区地域自治協議会 事務局長
委員	長濱良博	民生委員児童委員代表 理事
委員	石川雄三	和田山中学校PTA代表 理事
委員	後藤敏輝	消防団代表 理事
委員	中川まり子	和づくり・出会い部会副会長 理事
委員	三浦和美	広報部会副会長 理事
委員	岩木幸司	支援職員
委員	大林厚之	支援職員
委員	西村良太	支援職員
委員	久保田美優	支援職員

令和3年度

職	氏名	役職・部会等
委員長	藤本辰也	学識経験者（前自治協議会長）
副委員長	尾花 聡	和田山地区地域自治協議会 会計
委員	山本正之	和田山地区地域自治協議会 会長
委員	谷村修身	和田山地区地域自治協議会 副会長
委員	木村敏彦	和田山地区地域自治協議会 事務局長
委員	長濱良博	民生委員児童委員代表 理事
委員	高橋直也	和田山中学校PTA代表 理事
委員	後藤敏輝	消防団代表 理事
委員	中川まり子	和づくり・出会い部会副会長 理事
委員	西垣真由美	和づくり・出会い部会副会長 理事
委員	三浦和美	広報部会副会長 理事
委員	岩木幸司	地域担当職員
委員	大林厚之	地域担当職員
委員	西村良太	地域担当職員
委員	久保田美優	地域担当職員

事務局

事務長	安積信行	和田山地区地域自治協議会
事務員	森本美子	和田山地区地域自治協議会
補助員	松原敏典	和田山地区地域自治協議会

兵庫県・朝来市関係職員

県担当職員	岩見登代子	但馬県民局 地域づくり課 地域再生専門官
市担当職員	神谷芳彦	まちづくり協働部 和田山地域振興課 副課長
市担当職員	中嶋大介	まちづくり協働部 市民協働課 担当職員
市担当職員	絹川文雄	まちづくり協働部 市民協働課 担当職員

アドバイザー

まちづくりアドバイザー	戸田幸典	NPO法人丹波ひとまち支援機構 代表理事
まちづくりアドバイザー	中島英樹	(一社)朝来まちづくり機構 理事/事務局長



ペットボトルツリー点灯事業

和田山地区地域自治協議会

事務局 〒669-5261 兵庫県朝来市和田山町枚田 609
(朝来市防災センター内)

開館時間 平日 8 時 30 分～17 時

TEL 080-5636-0084

FAX 079-672-6020

メール wadayama-jitikyo@asago-net.jp

編集・制作 和田山地区まちづくり計画策定検討委員会